

第20回アートフィルム・フェスティバル

The 20 Art Film Festival of Aichi Arts Center



山城知佳子『創造の発端 -アブダクション/子供-』2015年
愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品

「アートフィルム・フェスティバル」は、実験映画やビデオ・アート、ドキュメンタリーなど、通常、映画館では上映される機会が少ない作品を、独自のプログラムにより紹介する企画です。近年、現代アートの領域では、映像メディアを用いた作品を多く目にするようになりましたが、こうした動向を理解する上でも有意義なイベントだといえるでしょう。

第20回目となる今回は、イギリスの映画監督パトリック・キラーが手掛けた、ドキュメンタリーと実験映画の中間に位置するような、ユニークな風景映像「ロビンソン三部作」を紹介する他、戦後日本の映像表現の実験的な領域をリードしてきた松本俊夫の、これまで未公開であった新発見作品や代表作を上映します。

また当館の開館以来、“身体”を統一テーマに設定し、制作を担当する作家の独自のアプローチにより、多彩な作品を生み出してきた「オリジナル映像作品」最新作として、美術家・山城知佳子の『創造の発端 -アブダクション/子供-』（2015年）を初公開します。

開催概要

主催 愛知県美術館

会期 11月29日(日)~12月6日(日) *11月30日(月)休館

会場 愛知芸術文化センター12階アートスペースA

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 (地下鉄東山線・名城線「栄」駅/名鉄瀬戸線「栄町」駅下車、オアシス21連絡通路利用徒歩3分)

お問合せ Tel.052-971-5511(代) Fax.052-971-5604 <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>
入場無料

協力・作品提供：アリアンス・フランセーズ愛知フランス協会、アンスティチュ・フランセ、クレストインターナショナル、アテネ・フランセ文化センター、神戸映画資料館、アダム・サザーランド、パトリック・キラー、英国映画協会(BFI)、木内久美子、NPO 法人戦後映像芸術アーカイブ、物流博物館、日本通運(株)、輸送経済新聞社、YUMIKO CHIBA ASSOCIATES

同時開催①「石田尚志ライブ・ドローイング」

日時 12月5日(土)16:30~

主催 愛知県芸術劇場/愛知県美術館 協力 名古屋芸術大学

会場 愛知芸術文化センター地下2階フォーラムII

ドローイング 石田尚志 チェンバロ演奏 戸崎廣乃

同時開催②「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル2015」(ICAF2015)

日時 12月5日(土)15:45~

会場 愛知芸術文化センター12階アートスペースA

主催 インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル実行委員会

共催 愛知県美術館、日本アニメーション協会(JAA)、日本アニメーション学会(JSAS)

■プログラムの見どころ

- ・愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品新作初公開+関連作品上映

『創造の発端 -アブダクション/子供-』初公開

監督：山城知佳子 出演：川口隆夫

近年、舞踏家・大野一雄のダンスを、上演記録ビデオを見て完全コピーし上演する試みに取り組んでいる川口隆夫。彼の創作のプロセスを、沖縄戦に巻き込まれた人々の体験談を、いかにして自身の肉体に継承するかに取り組んできた山城知佳子が映し出します。“身体”を統一テーマに設定した「オリジナル映像作品」の最新作を初公開。

・フランス・ドキュメンタリー 都市とアートを巡る旅

サイレント時代のアヴァンギャルド映画を代表する一本、ルネ・クレール『眠るパリ』(1923年)から、モーリス・ピアラのデビュー作『愛は存在する』(1960年)、ルイ・ドリュック賞を受賞したクロース・ドレクセル『夜の巷を徘徊する』(2014年)等、近年の話題作までを紹介します。また来年1月3日(日)から開催する「ピカソ、天才の秘密」展に先立ち、アンリ=ジョルジュ・クルーゾー『ミステリアス・ピカソ 天才の秘密』(1956年)を上映。

・パトリック・キラー「ロビンソン三部作」+風景の映像

1990年代より、風景をモチーフにした特異かつ実験的な長編ドキュメンタリー・フィクションを監督し、2000年代以降は美術館でのミクスト・メディア展示にも活動領域を広げている、イギリスの映画作家パトリック・キラーの代表作「ロビンソン三部作」(『ロンドン』(1994年)、『空間のロビンソン』(1997年)、『廃墟のロビンソン』(2010年))を、一挙上映。日本における初めての本格的なパトリック・キラー紹介の機会となります。

・「松本俊夫著作集成第一巻 1953-1965」刊行記念 松本俊夫 新発見&再発見

今冬、新たに著作集が刊行されるのに合わせ、新発見された企業PR映画『晴海埠頭倉庫』(1965年)や、1970年の「日本万国博覧会」(大阪万博)せんい館で行われた『スペース・プロジェクト・アコ』(1970年)の記録映像、8mmフィルムで制作された『ディレイエクスポージャー』(1984年)等の貴重な作品を紹介。また『修羅』(1971年)や『アートマン』、『青女』(ともに1975年)等の代表作をフィルム上映します。

・コレクション企画「線の美学」展関連プログラム

「線の美学」展出品作の勅使川原三郎『T-CITY』(1993年)や石田尚志『フーガの技法』(2001年)の他、この企画展のコンセプトに合致するダニエル・シュミット『KAZUO OHNO』(1995年)、辻直之『影の子供』(2006年)を合わせて上映。いずれもフィルムで映写し、映画本来の美しさを味わえる機会となります。

・同時開催①「石田尚志ライブ・ドローイング」

「線の美学」展に『フーガの技法』(2001年)を出品している画家・映像作家の石田尚志と、ソロ公演の他、バッハ・コレギウム・ジャパンや名古屋フィルハーモニー交響楽団とも共演し、活躍の場を広げているチェンバロ奏者・戸崎廣乃による、初のコラボレーションです。

・同時開催②「インター・カレッジ・アニメーション・フェスティバル2015」(ICAF2015)

映像のデジタル化という技術革新とともに、国際映画祭への出品や受賞など、伸長著しい学生が制作したアニメーションを、選りすぐりの作品で紹介します。

広報掲載に関する問合せ先

ご掲載記事について、日時・会場・電話番号などの基本情報確認のため、ゲラ刷りを次までFAX もしくはメールでお送りいただきますようお願い致します。

広報担当: 中村 FAX: 052-971-5617 TEL: 052-971-5511(代) email: art11@aac.pref.aichi.jp

上映会の内容に関する問合せ先

「アートフィルム・フェスティバル」担当: 越後谷 TEL: 052-971-5511(代)

記事等には、本展の問合せ先として以下をご掲載ください。

愛知県美術館

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 TEL: 052-971-5511(代) FAX: 052-971-5604

ウェブサイト <http://www-art.aac.pref.aichi.jp/>

記事作成に関するお願い

画像(図版)をご使用の際は、「配布用画像用キャプション」内の情報を必ずご明記ください。